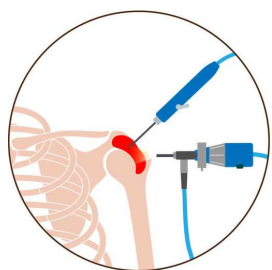


今号では最近話題になっている肩の症状の特集です。
肩で困った場合は放置せずに 肩専門医に相談をしましょう。

肩の病気ってどんなものがあるの？

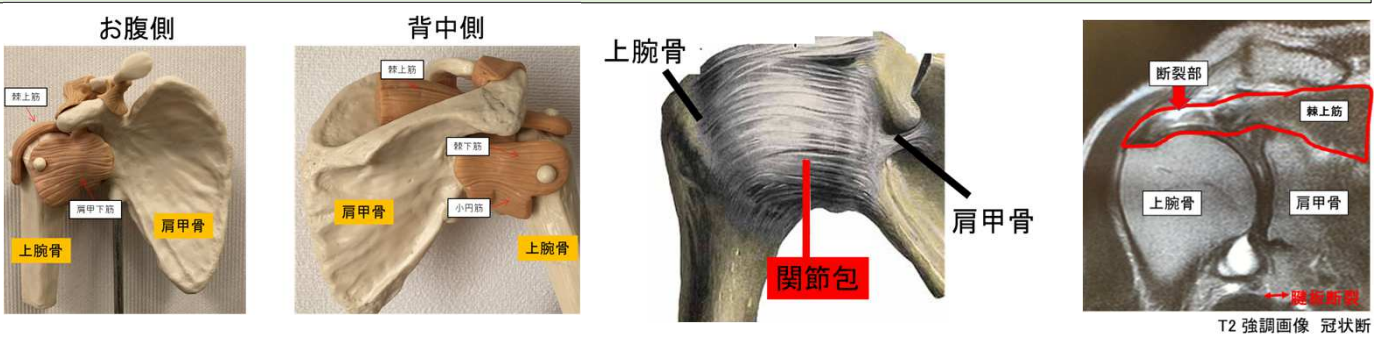
腱板断裂、反復性肩関節脱臼(外傷性、非外傷性)、凍結肩(肩関節拘縮)
変形性肩関節症/腱板断裂症性肩関節症、スポーツ分野では**投球障害肩**があります。

診断は、総合病院である特色を活かし、理学所見から疾患を絞り込みエコー、Xp、CT、MRI検査を総合的に評価します。手術方法は、直視下に大きな皮切を用いて手術をしておりましたが、近年は**関節鏡というカメラを使用した手術**が主流になってきています。**皮膚に1cm程の小さい孔**を数カ所作成し、そこに手術機械を挿入して組織を切除したり、またアンカーという糸付きビスを骨に差し込み、その糸を利用して断裂した組織を縫合することで**低侵襲**での手術が可能となってきました。

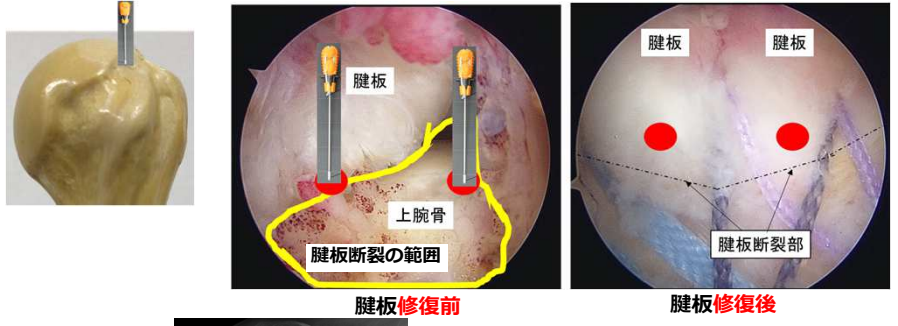


腱板断裂(動作時痛、夜間痛があるならこれかも??)

上腕骨頭に付着する**肩甲下筋腱・棘上筋腱・棘下筋腱・小円筋腱**の4つで構成されており、そのうち**棘上筋腱が最も断裂しやすい**と言われています。断裂の原因としては、**加齢**にともなう腱の変性、肩甲骨の一部である**肩峰とう骨との衝突、外傷**などで生じます。症状は肩関節の**動作時痛**とともに**安静時痛**、さらに**夜間痛**を認めることが多いのが特徴です。理学療法や鎮痛剤の内服、関節内注射など手術以外の方法に抵抗性の場合には手術を行います。手術は**関節鏡**を使用し皮膚に**1cm程の小さい孔**を4-5カ所作成し、**アンカー**を利用して断裂した腱板を上腕骨頭に縫着します。また**腱板断裂症性肩関節症(肩関節の骨が壊れた状態)**や**偽性麻痺(腱板断裂に伴う挙上障害:腕が前に上がらなくなる)**を呈し日整会のガイドラインを満たした場合は、**リバーstype人工肩関節置換術**をおこないます。これは、**上腕骨近位端粉碎骨折(上腕の骨の骨折)**にも適応があります。**リバーstype人工肩関節置換術**をするためには資格が必要ですが、**当科Drは有資格者**です。



松山市民病院
肩専門医
白石先生の外来日
 午前
火曜日・水曜日
 金曜日午後
肩の専門外来



肩のことで、お困りの症状がありましたら、ご相談下さい。おひとりで悩まないで、一緒に病気に向き合いましょう!!

手術の写真などさらに詳しく説明した当院の肩外来のホームページはこちらの二次元バーコードからもアクセスできます。

